

# 第六十四回ひこねの城まつり はしご登り演技

## 乗り手の華麗な演技に拍手喝采

# 彦根鳶だより

第21号  
発行  
彦根鳶保存会  
彦根市西今町415  
彦根市消防本部内

第六十四回ひこねの城まつりパレードが十一月三日に開催され、彦根鳶はしご登り演技に沿道を埋め尽くした観光客や市民の皆さんから拍手喝采をいただくことができました。



二の丸前での演技披露



写真上から：壱番組、弐番組、参番組

今後も、彦根鳶保存会の活動を通じて彦根の伝統を感じてもらえるように、彦根鳶保存会一同頑張りたいと思います。

# 平成29年彦根市消防出初式 はしご登り演技



演技(←): 八艘飛び

演技(↑): 一本大の字



演技(↑): 片膝留



### 彦根鳶保存会行事のご案内

彦根鳶保存会が参加、出場いたします。これからの行事についてお知らせします。

### ◎第六十五回

### ひこねの城まつりパレード

平成二十九年十一月三日(金・祝)

午後一時から三時まで(予定)

いろは松↓彦根城表門前↓夢京橋

### ◎彦根市消防出初式(式典)

平成三十年一月六日(土)

午前十一時頃から

金亀町 彦根城大手前保存用地

※詳しくは彦根鳶保存会事務局

(彦根市消防本部消防総務課 電話二二・〇三二四)まで

### 彦根鳶保存会活動記録

平成二十八年度

五月	十九日(木)	はしご登り演技練習
六月	二五・二六日	はしご乗り手の会視察研修
六月	二四日(金)	彦根鳶保存会運営委員会・総会
七月	十四日(木)	はしご登り演技練習
八月	十八日(木)	はしご登り演技練習
九月	十五日(木)	はしご登り演技練習
十月	十九日(水)	全体練習
	二十日(木)	全体練習
	二一日(金)	彦根鳶保存会第二回運営委員会
	二七日(木)	はしご登り演技練習
十一月	三日(木・祝)	ひこねの城まつりパレード参加
一月	五日(木)	全体練習
	七日(土)	彦根市消防出初式
		演技披露

## II 消防団の歴史をご紹介します。II

### 江戸時代

#### ○予防消防の徹底からはじまる

慶安元年(1648)3代将軍徳川家光は、膨張する江戸市中に、ひんぴんとして起こる火事を憂慮して、火の用心を喚起する火災予防に関する「町触」(まちぶれ)を公布して、厳罰をもって対処する取締を強めました。時の政府権力によって、火災予防の徹底を期した最初です。したがってわが国消防制度は予防消防から始められたわけです。

#### ○常設消防制度のはしり 武家火消

##### 定火消(じょうびけし)

「火災予防に関する町触れ」を公布した幕府は、その翌々の慶安3年には、大身の旗本2名を「火消役」に任命して2組の火消組を常置することにしました。今でいう消防署です。常置するから「定火消」と呼んだのです。以後定火消は6組、8組、15組、8組、4組と増減しながら幕末まで続きます。

### 大名火消

旗本による定火消を常設してから67年が経過します。江戸市中は毎年のように大火が続き、江戸城さえ焼く始末なので、幕府は常設消防強化のため、さらに譜代大名11人11組に命じて「大名火消」を常設する事にしました。享保2年(1717)8代将軍吉宗の頃でした。江戸城周辺に配置したので「方角火消」(ほうがくびけし)とも呼ばれました。

#### ○自治体消防の祖先 町火消(まちびけし)

定火消や大名火消が常設されて、それはそれなりに江戸の防火には役立つとはいふものの、江戸城や武家地重点の消防で、一般の町家のためにはならなかった。そこで、町人は町人の手で町家、町内を守るといふ発想から「町火消」が生まれた。町火消は、最初町家の子弟や奉公人たちが組織されたが、屋根の上に登ったり重いものを持つたりして、機敏な活動をするには向かない、お店者(おたななもの)なので、各町内にある鳶職の者をもって充てることとした。

これを「いろは」48組に分けて、普段は鳶の者として

土木や建築などの生業に従事しながら、一旦火災が起これば消防に早変わりするという今の消防団そのもので、経費は町内自治によって決められ運営され、まさに自治体消防の祖ともいえます。この町火消制度をつくった立役者は、当時の南町奉行大岡越前守忠相でありました。大岡越前守こそ消防団づくりの恩人といえましょう。

### 明治時代

#### ○火消の呼び名が初めて消防となる

江戸時代に消防制度ができたと申しましたが、消防とは言わず火消と呼んでおりました。組織も組織の一員である従事者もすべて火消でした。それが明治政府になって初めて消防という呼び名になったのです。明治3年(1870)東京府に消防局が設置されると同時に、江戸時代名残りの町火消が廃止されて「消防組」ということになりました。明治8年(1875)警視庁に巡査による消防隊ができて、常設消防は復活することになります。

#### ○消防組織が初めて全国統一された

わが国の消防組織制度は江戸時代に始まったことは事実ですが、この制度はあくまで將軍のお膝元である江戸のみで、大名の領地や幕府の直轄領たる地方にあつては、必ずしも江戸の消防制度そのままというわけではなく、制度のあるところ、ないところ、あつてもその地方独特のものでまちまちでした。そこで政府は、消防制度の全国統一を図るため、明治27年(1894)勅令をもって、「消防組規則」を公布しました。この規則は、大綱のみを定めて、細部については地方長官(知事)の定める細則に委ねられました。ここで、自治体消防制度の基礎が定まったといえます。今この市町村消防団の前身である市町村の消防組が、この年から全国に誕生したのです。

### 大正時代

消防団の前身である「消防組」は、日清、日露の両戦役、第一次世界大戦に遭い国内治安の第一線にあつた警察の唯一の補助機関として、任務を遂行しながら急速に進歩発展していったが、常設消防は、東京、大阪にあるのみで、他にはありませんでした。

#### ○重要都市に常備消防を置く

大正8年(1919)政府は、勅令によって重要都市に

常設消防を設置すべく「特設消防署規程」を發布して、関係府県知事に特設消防署の設置を命じました。都市常設消防署のはしりでありました。

### 昭和時代

#### ○消防組を警防団と改編する

水火災の鎮圧を主任務とした消防組に、新しく「防空」という戦争任務が加えられことになり、昭和14年(1939)勅令による「警防団令」が公布施行され、明治以来愛称されていた消防組は「警防団」と呼ばれるようになって大空を護れを合言葉に敵機の侵入を警戒する防空監視や空襲爆撃下の救護活動などが消防の任務となり、そのとおりに全国の消防が苦しい実戦体験をすることになりました。

#### ○平和国家の消防団となる

日本の敗戦によって、警防団という戦時体制の消防は必要なくなりしたので、元の消防に復するために昭和22年(1947)勅令によって「消防団令」が施行され、元の「消防組」でなく「消防団」として再出発することになりました。

#### ○名実共に完全な自治体消防団となる

江戸の町火消は町奉行の支配下にあり、明治以来の消防組も、昭和戦時の警防団も、さらにまた戦後の消防団も、一貫して警察行政の管理下にありましたので、この時期を総称して「警察消防時代」とも呼びます。ところが、敗戦による日本は、基本法である「憲法」も新しくなり、あらゆる行政機構の改革により、「地方自治法」の制度と共に新しく昭和23年(1948)「消防組織法」が施行され、消防の組織、運営、管理一切の責任が市町村長に義務付けられました。今までの警察消防時代から離れて名実共に「自治体消防時代」を迎えて、今日に至っているわけでありました。江戸時代の町火消から、消防組、警防団、そして消防団と300年余の伝統を承継いで今日の消防団員の皆さんがあるのです。そしてさらに将来にかけて何百年、この輝かしい伝統の業績を、次の世代まで伝えていく責任を背負っているのです。

※(財)日本消防協会発行「がんばれ消防団」から抜粋